

年月日

22
06
23

ページ

12

NO.

医療変革

未来からの反射 ③

今年が「医療DX元年」となるか

7日、骨太万針2022において「全国医療情報プラットフォームの創設」「電子カルテ情報の標準化等」「診療報酬改定DX」が盛り込まれ、「医療DX推進

本部（仮称）」の設置が明記された。医療デジタル変革（DX）に不可欠な電子カルテシステムのライセンス化は、医療情報のアナログ情報からデジタル変換（Digitalization）、データ入力項目・コード・データ構造の標準化）→データの高度情報化・PF化（PHRの拡充、EMRの普及）→二次利活用の拡大（新価値創造と社会変革）と考えられる。

17年のIT宣言・官民データ計画では、DXは「データがヒトをより国民の生老病死を救うことが重要である。

豊かにする社会」を目指す。私は、医療DXとは「デジタル化により、守る社会」への変革と考えてい。その目的は新価値の創造であり、それは三つに大別される。

（1）医師・医療機関における「愛され、愛される」（使い

年でも電子カルテの普及率（EMR）は50・4%にすぎない。これまでの増加率では100%に達するまで15年以上かかる。電子カルテの普及を加速するためには、まず医療DXの理念と目的を明確にす

国民主体の電子カルテへ



Medical Excellence Japan (MEJ)
理事長
笠貫 宏

は国民に還元される。デジタル社会におけるコロナ禍により、わが国の行政DXと医療DXの遅れと脆弱性が顕在化した。そして、国家戦略として医療DXが謳われた今、DXを理解し、医師のみならず、国民が自ら電子カルテに対する意識を改革し、行動を変容することが「医療DX元年」を実現する力がある。電子カルテ改革による医療DXは国民が主導となる社会変革である。

（2）DX:Digital Transformation
PHRの拡充 EMRの普及 二次利活用の拡大

（3）DX:Digital Transformation
PHRの拡充 EMRの普及 二次利活用の拡大

1 Digitization(デジタル化・標準化)
「愛される」電子カルテ
診療所・中小病院・大病院

2 Digitalization(高度情報化・PF化)

3 DX:Digital Transformation

7月28日に掲載予定